



みらいつうしん

4月号

令和4年4月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦 芳子

:° ...★.,:° ★.° *:.*:。.,::■



ご入園・ご進級おめでとうございます

さわやかな風が心地よく、春の花の美しさに心癒される今日この頃でございます。

いよいよ、令和4年度がスタートいたしました。本年度は、62名の新入園児を迎え、総数212名の園児達がみらいこども園で、乳幼児期生活を送ります。元気な子ども達と一緒に過ごせることをとても嬉しく思います。引き続き、本園の理念である「みらいこども園は、子どもも大人も尊重され生きる喜びが持てる場所です」を基本として、園児一人一人が、遊びを通して好きなことを見つけ、主体性をもって園生活を送り、友達を思いやり尊重しながら個々の資質や能力を育ていけるよう職員一丸となって環境を整えて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨今、私たちを脅かすコロナウイルスの感染が一向に終息せず、社会経済、教育機関まで、困難に陥っておりますが、みらいこども園では、消毒、換気、健康状態の把握をしっかりと行いながら、人とのつながりを大切に考え、「力強く生き抜く力」「生涯にわたる人格形成の基礎」を培うために、保育者と子どもの対話的関係を築き、深い学びが出来るように日々努力しています。特に着目するのは昨年と同様『挨拶』に力を入れていきたいと思ひます。挨拶は、相手の存在を認めて関係性を良くしていく第一歩ですから、朝の挨拶から大切にしていき、子ども達が、毎日の生活の中でたくさんの友達に出会い、人との関わりの一部として、『挨拶』を習慣として根付かせて行きたいと思ひます。朝、登園したら、「おはよう」何かをしてもらったら、「ありがとう」は、これからの人生においても必要ですので、特に大切にしたいと思ひます。どうぞ、保護者の方も笑顔で挨拶をしていただき、子どもの良い手本となってください。職員も保護者の方にお声をたくさんおかけし円滑なコミュニケーションが取れるよう努力いたします。また、4月は新しい生活の始まりですので、子ども達は、ドキドキ感とワクワク感を交差しながら、緊張や不安でいっぱいだと思います。一生懸命新しい環境に足を踏み出し、孤軍奮闘していますので、園から帰ってきたら、お子様をぎゅっと抱きしめてあげ、「今日は頑張ったね。」と声をかけてあげてください。これが、親子の絆を深く結び付け、愛着形成に繋がります。どんなときも未来に向けて成長を続け、笑顔をくれる子ども達と過ごす時間を大切に、子育てをしていきましょう。入園・進級に関係なくお子さまのために力を合わせていきましょう。

みらいこども園が、子ども達の大好きな場所であり、保護者の皆様が安心して預けられる施設として、園児一人一人にとってふさわしい集団生活の場であることを目指し、職員一同が力を合わせて教育保育に取り組む所存です。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。 勝浦

保護者の方と離れて泣いているお子さんに、担任が「お腹がすいてきたのかな?」「眠たくなってきたのかな?」と優しく声をかけると、一瞬目を合わせてくれる姿に嬉しくなります。声や表情、仕草で伝えようとしているお子さんの気持ちにしっかりと応え、安心の場となるよう日々過ごしていきたいと思ひます。

主幹保育教諭 三ツ橋知子

進級した1歳児クラスの子供達も、一緒にボールを追いかけたり、午睡の時間に横になったまま顔を見合わせてキャッキョウ笑ったりしています。言葉は交わさずとも泣いたり、笑ったり共感し合いながら、同じ経験をして過ごしてきた幼な心の中の小さな絆がみえました。新しいお友達も一年後には笑い合っている姿を想像しますと、これからの様々な体験がワクワクして迎えられるような気がします。 副園長 中城真由美

日常生活の中には、大人にとっては「あたりまえ」のことがたくさん転がっています。地球上で21世紀とは思えないような出来事が起きている今、平和な日常を、大人の感覚を「あたりまえ」と思わず、子どもを尊重し、大人も子どもも一人一人が生きている喜びを感じられるような、みらいこども園でありたいと思ひています。

主幹保育教諭 柳鶴聡美

